

AMD Aペルー支部長

アウグスト・ヤマニハ医師(78)



地滑り、土砂崩れ、河川の氾濫…。南米大陸の西岸に位置するペルーは3月中旬から下旬にかけて、国内で過去最大級の水害に見舞われました。

雨水による浸食作用でできた深い溝や溪谷(雨裂地)からは鉄砲水が襲い、れんが造りの家屋は一瞬にして押し流されました。

ペルー国家緊急オペレーションセンターによると、被害は国内のほぼ全域にわたり、4月5日時点で106人が死亡、15万7671人が被災しました。

ペルーでは過去に、左翼ゲリラによる127日間に及ぶ日本大使公邸人質事件(1995年)、死者500人を超す大地震(2007年)がありました。今回は海面の水温上昇によるエルニーニョ現象で昨年末から豪雨が頻発したのが原因でした。

最も被害が大きかったのは首都リマか

豪雨頻発 過去最大級の水害

被災地で診療所開設

ら約千キロ北西部のピウラでした。3月27日に主要河川が氾濫し、水位は成人男性の胸あたりまで上がり、住む家を失った人は4万3000人、家屋の被害を受けた

人は34万7千人となりました。AMD Aペルー支部は本部(岡山市北区伊福町)に支援を要請。しかし、二次災害の恐れからペルー政府の立ち入り規制を受け、医師と本部職員の2人がリマに到着したのは4月2日でした。

この医師はペルー生まれの日系人で、AMD A沖縄支部の渡久地宏文さん(69)。「ペルーは心の古里」と話し、07年の大地震の際も救援に駆け付けていただきました。

2人はピウラの避難所まで約5時間かけ、飛行機とバス、さらに水没地はボートと徒歩で渡りました。開設した診療所にはTシャツに短パン姿の住民らが頭痛や高熱、急性ストレスなどを訴えて殺到しました。

こうした避難所は170カ所にのぼります。政府は今後、プレハブ住宅1万2千棟を提供する計画です。

一方で、精神的トラウマに起因する家庭

内暴力、デング熱など蚊が媒介するウイルス感染症のまん延対策が課題となります。

さらに都市部の地価高騰のため、裕福でない人は安全なエリアに移動することができず、河川付近の被災リスクの高い場所に再び住んでいるのが現状です。最もエルニーニョ現象の影響を受けるのは貧困層なのです。

AMD Aの理念である「相互扶助」は、人々の生活の質を改善し、同じ過ちを繰り返さないという重要な教を示しています。

私たちは、官僚主義により震災発生直後の対応が迅速とは言えない政府に代わってアクションを起こし、長期的な問題解決や政策提言ができることを忘れてはならないと自らを戒めています。

被災地には日本からも温かいご支援が届けられています。ありがとうございました。



水害被害者を診察するAMD Aの医師(手前)

ペルー 立憲共和制国家。面積は約129万平方キロで日本の3.4倍。人口3115万人。主な言語はスペイン語で、国民の大多数がカトリック教徒。金や銅など鉱物資源の輸出で知られる。日系人が多く推定人口は約5万人。AMD Aペルー支部は1997年、リマに開設。スタッフは4人。

